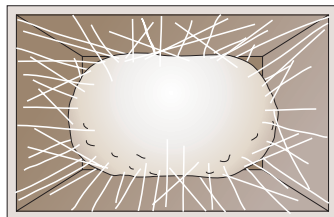


カイコガ



カイコガは、さなぎになるときに糸を出して(1)を作るがです。その糸は「(2)」として利用されています。

カイコガは品種改良が進んでおり、人間に世話をしてもらわないと生きていくことができません。成虫ははねをもちますが、飛ぶことはできません。



カイコガのまゆ

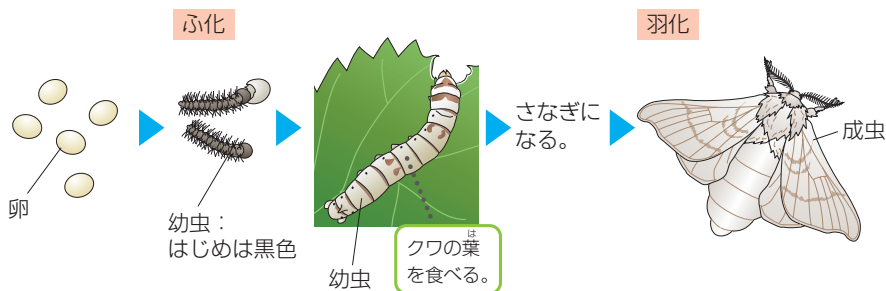
+プラスワン

イラガも、カイコガのようにまゆを作ります。イラガの幼虫は夏から秋にかけてカキやサクラ、クリの葉を食べて成長し、木の枝にまゆを作ってその中でさなぎのすがたで冬ごしします。



成長のようす

カイコガなど、ガは(3)です。(4)したばかりの幼虫は黒っぽい色をしており、成長するに従って白くなります。やがてさなぎになり、(5)します。



食べ物

カイコガの幼虫は(6)という植物の(7)を食べます。

+プラスワン

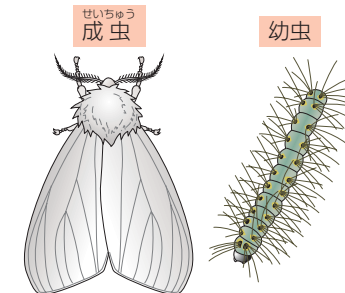
カイコガの成虫は、口が退化しているため食べ物を食べることはできません。卵を産むとやがて死んでしまいます。

アメリカシロヒトリ



アメリカシロヒトリは、幼虫が樹木の葉の裏などで見られるがです。もともと外国から持ちこまれた(8)ですが、日本でも広く生息しています。

アメリカシロヒトリの幼虫は、サクラやブナなど(9)を食べます。樹木の葉を食べつくすため、害虫とされることがあります。



+プラスワン

アメリカシロヒトリの卵は何百個もまとめて産みつけられます。ふ化した幼虫は葉の裏に巣を作ってしばらくは集団で生活します。樹木の葉を食べつくすと集団で次の樹木に移動します。

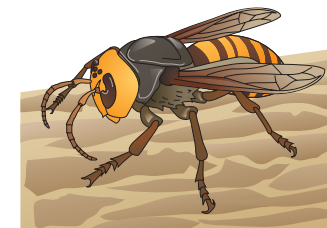
スズメバチ



スズメバチは日本全国の山などで見られるハチで、ハチの中でも大きなからだをもちます。

スズメバチは(10)の形の大きな巣を作り、集団で生活します。まれに民家の屋根の下などに巣を作ります。

スズメバチの幼虫は、成虫がつかまえた(11)を食べます。成虫は、幼虫が口から出すしるや花のみつなどを食べます。



+プラスワン

スズメバチは凶暴な性格です。巣に近づいた人を集団でおそってくる場合があります。また、スズメバチは毒をもっており、針でさされると非常に痛いだけでなく、そこから毒を送りこまれ、場合によっては死んでしまうこともあります。

ミツバチ



ミツバチは、野原などでよく見られるハチです。

ミツバチの成虫は(12)を集めて巣に持ち帰り、別の形にかえてたくわえます。これがわたしたちが食べる「ハチミツ」で、食用とされています。

ミツバチは(13)を作って(14)で生活します。各自の役割分担がしっかりと決まっています。

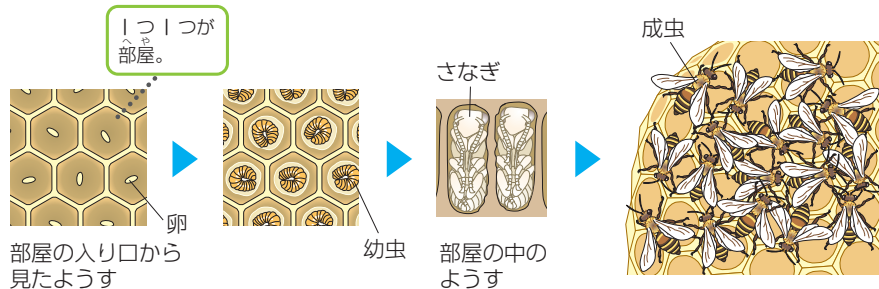


+プラスワン

ハチミツを取るために飼われているミツバチの多くは、外国から入ってきた「セイヨウミツバチ」です。以前は、もともと日本にいた「ニホンミツバチ」が飼われていました。

成長のようす

ミツバチなど、ハチは(15)です。巣に1匹だけいる(16)がたくさんのお卵を産みます。卵が(17)すると、幼虫は(18)に世話をされて成長します。やがてさなぎになり(19)しますが、多くの成虫は働きバチとなり、1匹だけが女王バチとなります。



+プラスワン

ミツバチの女王バチ、働きバチはめずです。女王バチがある時期に受精していない卵を産むと、その卵からたくさんのおすがうまれます。その中のおすが女王バチと交尾します。役目を終えたおすは巣から追い出され、死んでしまいます。

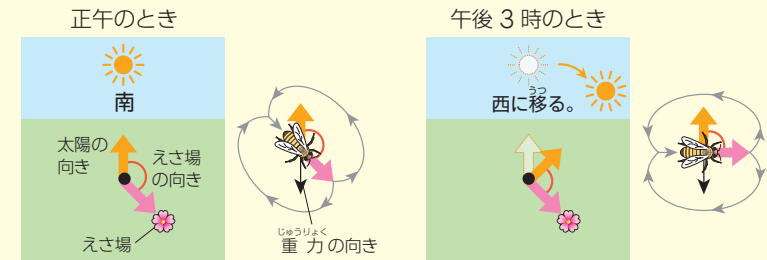
ミツバチは、(20)のおすがたで、巣の中心に集まって冬ごしします。

食べ物

ミツバチの幼虫は、働きバチが集めた(21)や働きバチが出す(22)という液を食べます。働きバチは、(23)や(24)を食べます。女王バチは(25)を食べます。

+プラスワン

ミツバチの働きバチは、えさのある場所を「8の字ダンス」でほかの働きバチに伝えます。8の字ダンスでは、8の字の真ん中を進むときの向きで、太陽と巣とえさのある場所の位置関係を表し、ダンスの回数でえさのある場所までの距離を表します。



からだのつくり

ミツバチの成虫は、花のみつを食べるので、(26)です。また、成虫には(27)がついていて、巣がおそわれたときに敵にさします。

(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載しておりません。